

件名	第5回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2017年1月20日(金)18:00~19:30		
場所	海晴館		
出席者 (敬称略)	(委員10名) 朝日田 卓朗、岩本 馨、山田 志伸、鷺野 星夫、田嶋 昭彦、遠藤 公章、渡邊 由佳、中原 政喜、石井 美佳代、坂田 克 (オブザーバー) ・区長6名 泊1区長 小泉一義、泊2区長 岩本和雄、泊4区長 上野義博、泊6区長 濱崎正文、小浜区長 賀須井長美、園区長 木下善議 ・県中部総合事務所地域振興局 栃本リーダー、久保田係長 ・地域おこし協力隊 新田雅樹、辺美礼 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計 23名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	平成28年度第5回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会資料		

## 1. 開会

### ■出席者自己紹介

※区長交代もあり、出席者自己紹介

## 2. 会長あいさつ

(会長)昔は泊地域で経済が回っていた時代もあったが、いつの間にか店舗が減ることにより買い物が不便になり、人口も一気に減少している。このまま手付かずでいけばどうなるのか、と不安があったところ、役場から地域をどのようにするか考える。いう話があり、この協議会がスタートした。これまでの会議で「人口を増やすにはどうすればよいか」と「高齢者がこの地域で快適な生活ができるか」という対策を検討してきた。前回までの意見・抽出を資料にまとめている。人口が増えるにはどうすればよいか、高齢者がこのまま住み続けるにはどうすればよいか、で共通する項目として、「買い物をする場が必要」ということが上がっている。また、住む場所がない、家を建てたくても土地の供給がないといったところが主な対策になっていた。出来れば子育て世代が外から来てくれることが最も望ましいので、それに対する対策が必要になる。同じ町内だとどうしても便利な方に流れてしまう。インセンティブが必要。子ども達が減少しているが、高学年くらいになれば塾に通わせるために羽合や倉吉まで送迎している状態なので、泊地域に塾が出来ないかといった意見も上がっていた。

人を呼びこむために、海や潮風の丘をもっと活用してはどうかという話も上がっていた。

高齢者のための戦略では、お買い物をする場所がどうしても欲しい、といった意見や、去年地震があったときも恐かったという声もあったので、今の居住スタイルで安心、安全なのか、離れて住む家族にとっても心配がある、といった意見もあった。

今日は、どういう方向に進んでいくか、そろそろ出来ることから進めるために、絞っていかなくてはいけない。意見だけ聞いているわけにも行かないし、全部は一気にはできないが、可能なところから動き出したら見えてくることもあると思う。どういったところから取り掛かるかということについて意見を出し合いたい。皆さんから、どのあたりから取り掛かるべきかという声があればお聞かせいただきたい。

## 3. 泊地域の問題点への戦略について

(委員)海の資源を活かしたイベントをするなどは、取り掛かりやすいと思う。とにかく人に来てもらうことからであれば、手をつけやすいと思う。

(委員)商売人なので、港付近を使った事業ができればいいと思うが、「海の駅とまり協議会」にそういったことは任せて、地域の方が必要とするところ、商店を増やす、空き家を活用するなどの話になればいいと思う。

(会長)「海の駅とまり協議会」について説明する。1月11日から始動し、1回開催された。この協議会でも私が会長を務めている。どうしても、2つの協議会を切り離して話せることではないと思っている。栽培漁業センターや潮風の丘、海晴館やサーフショップなどが連携して外からの集客に向けて、泊の資源を使って何か出来ないかというところに特化した話を進めている。

(委員)人口増に向けた対策の内容が絞られていないと思ったが、海の駅とまりの話聞いて、重複する部分もあるし、こちらも焦点を絞りやすくなったと思う。表題にある、小さな拠点、を中心に検討していく必要があると思う。例えば移動販売でぐるぐる回るよりは、店舗をひとつにまとめることなどもあると思う。絞り込んでいくためには、今までは色々な話がでたが、行政でどういったことが出来るのか、過疎地域の起債など、どういう風に使えるのかをお聞かせいただければそこに乗れるものや意見や要望を言えると思う。

(事務局)昨年度、町の総合計画を策定すると同時に、泊地域では過疎計画を策定した。また地方創生に関する取り組みとしてまちづくりの総合戦略も策定した。特に泊地域に関しては、過疎計画、総合計画、総合戦略の内容をしっかりとすり合わせている。過疎債は返済時に特別な措置があるという有利な起債だが、過疎計画に記載のあるものが対象になっている。これはハード、ソフトいずれも対象になる。小さな拠点事業は国土交通省による有利な補助金も活用できるし、それ以外の部分で過疎債を適用できる。

(委員)買い物については、移動販売を増やす、買い物を出来る場所を作る、タブレットを持って買い物を出来るようにする、移動のための車を出すなど、候補が絞られてくると思う。

(会長)まずは買い物を出来る環境を整備するということか。

(委員)拠点の絞込みと買い物を検討することが必要だと思う。先日の休みに実際に移動販売を見て、高齢者が買い物に困っているという現状をみた。商品券があっても買い物をする場所がないと聞くと、店舗は必要だと思う。それに人が集るコンテンツがあればいいと思う。

(委員)住む場所を検討することが必要だと思う。

(委員)すみません、まだ十分に考えられていない。

(委員)これまでの議論の中でも出たが、何等かの支所機能を合わせた拠点が必要だと思う。補助金、起債を利用して箱物が出来ると思うが、それを中心として、買い物ができるように人を運ぶ仕組みが必要。例えば泊に商店が出来た場合、その品揃えがどうか、小浜、宇谷などからどうつなげるかというソフトの検討も必要。

(委員)弁当がないときに東郷や羽合に買いに行かなくてはいけないので、買い物が出来る場所は必要だと思う。

(会長)地域に密着されている区長さんからも意見があれば戴きたい。

(区長)区民からの意見を聞いたわけではないが、やはり漁業を中心にして、そこから加工工場や若い人が経営、働けるホタテの加工場などを整備して、若い人を入れていけるようになれば、漁業にも力が入って、店ができたり、思い切ったレジャー施設ができるとか、とにかく港を中心に検討していけばいいと思う。

(区長)単純に思うのが、合併して10数年になるが、行政が果たして泊に目を向けていたのか、思えば、ハードも全く変わっていない。過疎債を突っ込んで利便性が良くなるのか疑問だ。高齢者が暮らしやすくなる方法、若い人たちが来てくれるような小学校の仕組み、宅地を用意したとして若い人が住むのだろうか、通学などのリスクを考えると羽合に住むのではないか。高齢者と若い人と分けて仕組みを考える必要があるのではないかと感じる。町長も泊出身なので遠慮しておられるのかもしれないが、東郷池周辺に目が向い

ているように思うし、泊は利便性やハードも変わっていないように思う。

(会長)確かに町長も遠慮しておられるのかな、と感じるが、やっと順番が回ってきたと思う。我々も意識を変えなくてはいけないとつくづく考えるようになった。自分自身は車があるので、買い物に不便はないが、今から意識を変えなくてはいけないと、自分自身も思うようになった。

(区長)まずは、どんな組織、どんなことを議論しているのかな、と勉強にきたので、次回から発言したい。

(区長)やはり泊地域に子どもが居ないことが残念だ。若い夫婦が少なくなって高齢者が増えており、小学校も学年10名切ったなど聞いているので、若い人が来られる環境づくりが必要だと思う。

(区長)私は普段から買い物のことが問題だと感じている。移動販売も来ているが、週1回で品数が少なく値段が高いので、利用者も限られている。生協がしているような仕組み(カタログ)が出来ないかなと思っている。各地域に拠点を置いて、取りに行くようにして、お茶を飲めたらいい。やはり自分の目で商品を見たいという方もいるので、バスや交通機関の無料券など配布すれば利用するのではないかなと思う。小浜までバスも来ているが、利用している人は少ない。同じ補助金をだすのであれば、最初から無料にして、後から町が補助してくれればいいと思う。小浜の場合、昔は青谷と交流があったが、今はバスが切れてしまっている。医者でも青谷に行っているのだから、その部分をどうにかできないかと感じている。

(区長)特に買い物とかは24時間営業をよく利用しているが、コンビニが近くにあれば若い人も利用すると思う。あとは、漁業、農業が合体したような人が集う場所が出来れば産業が発達するのではないかなと思う。

(オブザーバー)地域の範囲が広く集落が点在しているので、それをどうまとめるかを考える必要があると思う。どの方法が利便性が高いのかを検討する必要があると思う。

#### 4. 視察の日程、視察先について

(会長)我々がこれから進めるなかで、①買い物について考える、②住む場所の提供、住む人(子育て世帯)について考える。と言うところを進めたいと思う。買い物について、どういった形態がいいのか、参考になる事例の資料がある。

(事務局)島根県雲南市では、唯一地区にあった店舗が閉店し、全日食チェーンとして開業資金は約500万円で、助成金や融資、地域の寄付金を集めて開業した。場所は旧小学校がコミュニティの場所として利用されていたので、そこに店舗を構えた。専属の店員はおらず、協議会の事務員が兼務している。実際に視察したが印象としては、品揃えも豊富で安かった。お酒なども揃えており、物によってはコンビニにより安く、買ったらずぐに隣のコミュニティスペースで食べられる。移動も要望があれば迎えに行く形をとっていた。採算については、何年かかけて収支が合うよう長い目で考えていた。システムも大手と繋がっているのだから、在庫管理なども行っていたし、管理は手助けしてもらっていた。

(会長)もしこういう形態を進める場合、地元で上がった野菜や魚なども売れるのかなといったイメージがあると思うが、可能なのか。

(事務局)改めて確認する。

(会長)雲南市を視察先として考えるのはどうか。

(事務局)移動には3時間ほどかかる。

(会長)買い物を皆さん意識している部分もあるので、どうか。

(委員)いいと思う。

(委員)一番、取り組みやすい部分かなと感じる。

(委員)地区だけにするのか、たすけ愛号みたいに移送手段があればいいのか。

(事務局)山奥なので家が点在している。

(委員)市の職員が行っているのか。

(事務局)集落支援員といった制度を利用し、協力隊みたいな形式で、一人が色々なことをするなどの方法を取

っている。

(会長)視察先は島根県雲南市掛合町波多地区 波多コミュニティ協議会とし、時期は改めて相談させていただきます。

#### 5. その他

(会長)松崎でも色々な動きもあるので、一言いただきたい。

(オブザーバー)去年、まつぎ元気まつりがあり、会場や出展者、ボランティアも盛り上がった。松崎でやったが、泊や花見からも色々な人が協力しあって話し合いながら進めた。自然と横の繋がりができて、一点だけでは突破できなかったところが、繋がることで盛り上がった。

(事務局)箱物は公民館、分庁舎など古くなっている。集約化は避けられず、利便性は悪くなる。ソフトの面ではやはり高齢者が買い物など不便を感じているので、それを解決し、継続できる仕組みを考えることが必要だし重要だと思っている。

(会長)引き続き進めていくなかでは色々議論していきたい。住む住民が考えて、意識を変えればなかなか商売は成り立たないと思う。我々の役目としては、検討していくことと、住民の意識改革に向けて動くことで、区長方も住民にお話をさせていただきたいと思う。

#### ■次回開催

2月22日(水)18:30～ 中央公民館泊分館 大会議室